

製剤種差検討会

「製剤設計における種差の問題検討会」

第9回事例報告会

日時：2020年1月24日（金）10:00～17:25
会場：城西大学 紀尾井町キャンパス

2016年4月に発足した製剤種差検討会での事例報告会は今回で9回目を迎えました。60名が参加し、5例の事例報告と、経口剤・注射剤・外用剤の分野に分かれ少人数でのグループディスカッションも行われました。今回も非常に白熱した議論が交わされ、盛況のうちに会を終えることができました。



▲開会挨拶 山下 伸二先生
(摂南大学)



▲赤荻 誠一郎先生
(ハムリー)



▲本田 誠先生
(リプロセル)

事例報告① 赤荻 誠一郎先生

- 医薬品開発業務受託機関(C.R.O.)からみた動物種差検討

事例報告② 本田 誠先生

- 創薬研究におけるヒト組織およびヒトiPS細胞の活用

事例報告③ 安楽 誠先生

- ラットにおける固形製剤(錠剤、カプセル剤、腸溶性カプセル剤)投与の検討並びに各固形製剤のラット、イヌ、ヒト間における動態学的種差

事例報告④ 鎌田 昇先生

- 胃内滞留性徐放性製剤の開発

事例報告⑤ 太田 琴恵先生/内田 将史先生

- 代謝物解析によるヒト血中動態予測ならびにイヌを用いた徐放性製剤評価

事例報告ファシリテーター、グループディスカッション発表の先生方



▲安楽 誠先生
(崇城大学)



▲鎌田 昇先生
(キッセイ薬品工業)



▲太田 琴恵先生
(東レ)



▲内田 将史先生
(東レ)



▲閉会挨拶 原島 秀吉先生
(北海道大学大学院)



▲菊池 寛先生
(LTTバイオファーマ)



多くの参加者から積極的な意見や質問が
寄せられ、活発な議論が交わされました。



報告会後に行われた情報交換会(参加者数
38名)では交流の輪が広がりました。



レイアウト:
村野 美佳
(大日本住友製薬)
藤田 優
(沢井製薬)

第10回事例報告会は7月3日(金)に開催の予定です(開催地:京都あるいは大阪)。